

牧島保育園の運営に係る三者協議会会議録

開催日時 令和6年11月27日（水）18:30～19:15

開催場所 牧島保育園遊戯室

出席者 牧島保育園保護者（保護者会）代表 他1名

社会福祉法人明志会 理事長 他2名

市子育て支援課 山口課長、佐々木室長、池田

関係者 設計業者2名

会議内容

1 開会

2 あいさつ

山口子育て支援課長があいさつ

3 自己紹介

4 協議事項（議長：山口子育て支援課長兼本協議会会長）

（1）三者協議会副会長の選出について

保護者（保護者会）から代表の大古場氏に決定

（2）牧島保育園の民営化後の運営に係る気付き等について

佐々木室長が説明

（質疑）

議 長） 事務局から説明があったが、今年度、牧島保育園に園児を預けての気付きや質問等があればお願いしたい。

保護者） まずは、保育園に預けてもらう子どもの数が多くなってきたことと、牧島の子どもが少なく感じるくらい牧島だけではなく伊万里の街中から預ける人が増えた印象である。遠くから来てもらうことは牧島保育園に対し良いイメージを持たれていることなのでそれが一番嬉しいと思う。

園 長） 令和4年度に公私連携型保育所として明志会が運営に携わり、これまでの推移を踏まえ定員を見直し、定員60名から10名引き下げ50名とした。このため令和4年4月から50名定員となり、初年度の4月1日は48名でのスタートだったが、途中入園があり最終的には53名になった。2年目の令和5年度は前年度と同じ48名からスタートし年度末には54名になった。

この2年間で感じたのは、昭和60年頃に小規模保育所として3歳児、4歳児、5歳児の3つの保育室を整備する中で、時代のニーズに伴い0歳児からを受け入れる時に、自ずと0歳児と1歳児、2歳児と3歳児、4歳児と5歳児の合同保育になった。特に未満児の利用ニーズに応えるための1名あたりの面積が確保できず、2年間断らなければならない状況だったので、3年目の令和6

年度においては、年少児用の仮設保育室を建て面積を確保した。

令和6年度は年度当初49名でスタートしたが、11月末現在57名で、来月には1歳児の入園希望者が1名いるので58名、最終的には2月1日に0歳児の入園希望があるので、今年度は59名になる見込みであり、その後の令和8年度の新園舎でのスタートにつなげていきたい。

あと2つの要因を感じており、1つはFacebookとInstagramのSNSで見える化に努めたことで、保護者から反響があったと思っている。また令和7年度に向けては、先週も見学者があったし、新年度に第1子を新入園児で預けたい人も4～5名見込める状況であり、その人達に見学の際に話を聞くとInstagramを見たということがあった。

先ほど保護者からありがたい言葉をもらったが、あえて真摯に受けとめなければならぬことを言うと、令和4年度は市からの派遣職員として主任保育士やクラス担任の保育士、調理師など4名を配置し、令和5年度は主任保育士1名に残ってもらった。

今年度は全ての派遣職員を引き上げてもらい、公立保育園時代の会計年度任用職員を正規職員として採用し頑張ってもらっていること、私を含め現在の主任保育士、もう1名の保育士が楠久保育園から異動して来た体制、他の園で勤務していた保育士という三者三様の配置をし、色々な意味で「脱却」をキーワードに掲げ保育する中で、園児バッグの中身を取り違えたり、乳児の外遊びでベビーカートの安全ベルトを締め忘れたことがあった。

そのようなところをしっかりと検証し再発防止に努めること、日々の保育のカリキュラムでもちょっとした怠りや自覚の欠如があったので、そのような一つ一つの事案に対し、職員とその都度ミーティングを行い、何が原因で、何が欠けていたかをしっかりと話し合い再発しないよう努めている。

そのようなことを今日改めてお詫びし、そのようなことも含め園として皆様からの評判が最善の紹介状になるよう今後も努めていきたい。

議 長) 他に何か質問や意見はないか。

保護者) 私は30年前に牧島保育園を卒園した。その時代とだいぶ変わっているが、民営化後も自分が通っていた時と同じ部分を残しつつ、今の子ども達の成長に合わせたリトミックや新しいことを取り入れてもらい、親としては安心でき、預けて良かったと思う保育園になりありがたい。

協力してくれる人はいるので今後もどんどん使ってもらい、今も継続しているキュウリの収穫など、子ども達に地元の良さを分かってもらう指導をしてもらいたい。

園 長) 今の意見のように、様々な保育の在り方がある。リトミック教室で外部講師を呼ぶ音感による情操教育もその一つである。また運動機能向上において乳幼児期の子どもの健やかな成長を育む体育教室、それと「子どもの成長見える化

プログラム」に取り組むチャイルドヘルスケア協会との業務提携による年2回の発育、体力測定を実施し、子ども達の成長の見える化で身長、体重のみならず足裏診断として様々な問題を抱える足が土壌となりそれが成長過程の中で、足首、膝、腰にひずみがないよう靴のサイズ選びや子育て講演会なども実施し、また園だよりにより毎月コラムを載せながら、触れ合いとともに、子どもとの関わり方を保護者目線で知らせているところが今の保護者からの一定の評価になっていると思う。

また、体力測定に来てもらう外部講師に任せておくのではなく、そこから日々の保育に活用していくことに繋げようという話をしている。牧島保育園にこれまでの公立にはなかったものを導入しながら保護者とつながっていこうと努力している。

議 長) 今、保護者から安心できると言ってもらい、私たちも嬉しく感じるし、本当に園に頑張ってもらっていると思っている。ただ、安心は今がゴールではなく今後ずっと続くことであるため、私たちも協力しながら、保護者に安心して預けてもらえるよう努めたい。意見等があればこの場や直接園長先生に話をしてもらいたいので、今後もよろしくお願いしたい。

(3) 牧島保育園の新施設の協議状況について

参考資料(三者協議会後回収)により佐々木室長が説明
(質疑)

議 長) 事務局から協議状況について説明があったが、設計業者からの説明があればお願いしたい。

業 者) 本日は、今後のスケジュールをまとめた資料と詳しい設計内容の2つの資料を準備し説明させてもらう。

業 者) まずは、今回の新園舎工事がどれくらいの期間かかるか概算工程表を作成している。全ての工事が2025年中に完了する予定で考えている。ただし詳細な工程表は施工業者が決定してから作成することになる。

既存の園舎を避けて新園舎を建てる計画にしているので、工事の流れとしては、まずプールを解体することから始まる。また、既存園舎と新園舎が近接するので、プールの解体が終わると工事の安全を確保するため、既存園舎の玄関やトイレを少し改修する。その後、敷地造成工事を行い、7.5か月ぐらいで新園舎を建てた後、今の園舎を解体し、最後に駐車場など外構工事を行い完成となる。

今回の計画では既存園舎を残しながら新たな建物を建てるので、来年10月ぐらいまで既存の園舎で保育を行いながら、その間に新園舎の工事が完了するため、そのタイミングで新園舎に引越し、その後、旧園舎を解体する。工事の間の仮囲いはしっかりと行い子ども達の安全を確保する。引き続き、計画の

概要を図面で説明させてもらう。

議 長) 用意した図面の上の方が国道になる。

保護者) 盛土をして国道とフラットにするのか。

業 者) 国道自体が少し緩やかに上がっているが、その低い方に合わせ道路から園にアクセスできるようにする。

業 者) 土地を上げる理由の1つが水害対策で、設計の初期段階から園長先生と話をさせてもらい、段々と建物を高く上げることで水害が起きた時も安心して避難できる場所になるよう計画している。建物の構造は木造で園舎の面積は全体で705.6㎡となり、今の園舎が366㎡なので約2倍の広さになる。

業 者) 面積が大きくなるのは、地域へ開放しつながりをもつスペースを設けることと、リトミックなど新しい保育を取り入れる中で、保育室とプラスアルファの空間を造ることでより充実した保育環境を提供するためである。

業 者) 盛土する建物の高さは、今の園舎敷地とは1.3mぐらい差があるので、園児の玄関は今と同じ国道と反対の道路を使うことになる。こちら側に駐車場も整備し、保護者に止めてもらい送迎してもらうことになる。園舎は大きく4つのボリュームの建物が連なる形で構成し、玄関側が事務室や給食室がある事務棟のイメージになる。

玄関から段々と建物の床を上げる計画で、所々にスロープや階段があり、多目的ホールのところで国道と同じ高さになるので、廊下にも起伏があり子ども達にとっても楽しい空間になると思う。大人がいる事務棟の次に、玄関から近い方が未満児の保育室となり、01歳児と2歳児の保育室の間に未満児のトイレを配置している。その先のスロープを登ると次はランチホールと素材のアトリエという保育室とは別で子ども達が活動できるスペースを作っている。3歳以上児の保育室は5歳児、4歳児、3歳児の順で配置している。

最後一番高いところが多目的ホールと地域開放広場になるが、今回国道と同じ高さにしたため、道路側からもアクセスできるので、こちらにも玄関を設け、地域への開放にも使えるスペースを計画している。

園 長) 新園舎での運営開始は、令和8年4月としているが、完成次第令和7年度末でも、新園舎での保育ができればと考えている。

令和8年度、新園舎に完全に移行するタイミングで保育所である牧島保育園を保育所型認定こども園にしたいと考えており、令和7年度中に市を通じ手続きを行いたい。

なぜかという、認定こども園は保育園と幼稚園のどちらの機能も兼ね備えている。保育園に入園している人は、両親が働いていることが保育の必要性の認定、または求職活動中の人が就職するために保育の必要性の認定を受けるが、稀に退職に伴い退園を余儀なくされるケースもある。

それまで保護者と保育園が良好な信頼関係を築いてきたが、保護者が職を失

ったために退園となると、私たちの関係性のみならず一番大事なのは子どもなので、そのような時に1号の幼稚園部分の認定があることで、子ども達の連続的な育ちに寄与することができればという考えで認定こども園にしたいと考えている。

もう1つ、多目的ホールは年1回お遊戯会などを行う場所であるが、子育て講演会や地域開放広場という地域に根差した社会資源としてこの施設が貢献することも想定しているので、青年会やカブトガニ保存会など地域の皆さんと一緒に夏祭りなどで利活用したいと考えている。

先ほど50名定員と言ったが、50名の保育園の定員に加え、10名の幼稚園部分を加え60名に定員を見直すことにしている。地域に根付き、地域の皆さんと子どもの育ちに連続的、多角的に関われる園にできればと考えている。

議 長) 何か質問があればお願いしたい。

業 者) 先ほどキュウリの収穫の話があったが、今まで大事にしてきたものは大事にしつつ、新しいことにもつなげていくことができればと思っている。これから工事が進む中で、保護者や地域の皆さんに色々と知恵を借りる場面も出てくると思うが、引き続きよろしくをお願いしたい。

園 長) 園庭は造園業者に関わってもらい、様々な植物を植えたいと考えている。色々な遊具があるアトラクション会場のような保育園は考えておらず、しっかりと自然と触れ合う中で、様々な感性を育んでもらうためのアプローチ、園庭に落ち葉一枚あるだけでも子ども達の想像力は無限に広がると思っているので、遊びこみがしっかりとできる環境を目指しているし、牧島においては木須川の清流のホタルや多々良海岸のカブトガニがあるので、そのようなところと牧島保育園が連携できればと思う。

議 長) 良いものはそのまま生かしてもらい、保護者が相談できる場所や、保育士の職場環境のための動線や休憩室を設置されるなど、今の保育園にはないものも加え、それにより園児への対応も今までより良くできると思う。

保護者) 園児はもちろんであるが、働く先生達の環境を良くしてもらえたら、牧島保育園に多くの職員が来てくれるかもしれないのでそれが一番だと思う。

園 長) 今、議長から話があったように相談室やふれあう場所などで、何気ない雑談をする中でも保護者の悩みや思いが聞け、保護者と分かり合えるところがある。その中でも一番は健やかな子ども達の最善の利益で、そのために私たち大人は、子ども達にとっての環境や人間関係など色々な大人と触れ合う機会を大事にしたいと思う。

保護者) 保護者は玄関での送り迎えになるのか。

園 長) 保護者は玄関から入ってもらい、それぞれの保育室のロッカーに園児バッグや手荷物を預けてもらうことになる。

業 者) 今までは一緒に園庭を歩いて保育室へ送迎してもらっていたが、新園舎では

それが園舎内に変わることになる。

法 人) 旧園舎を解体する時には園舎とのお別れ会などセレモニーを計画している。

園 長) 既存園舎の解体もあるが、新園舎のオープニングセレモニーもあるので、解体する旧園舎や新園舎のセレモニーに保護者から意見をもらいたいと思うが、今後計画し保護者にも尋ねながら進めていきたい。

(4) その他

5 次回開催日について 必要に応じて実施する

6 閉会